

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

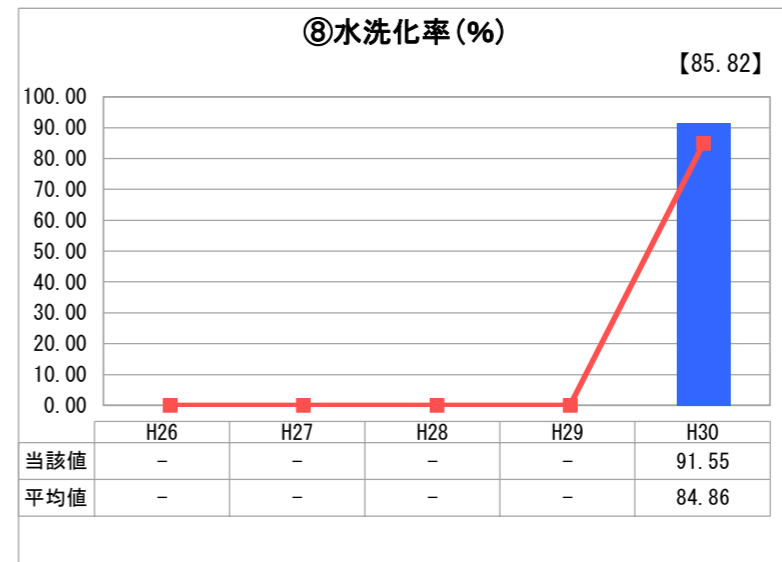
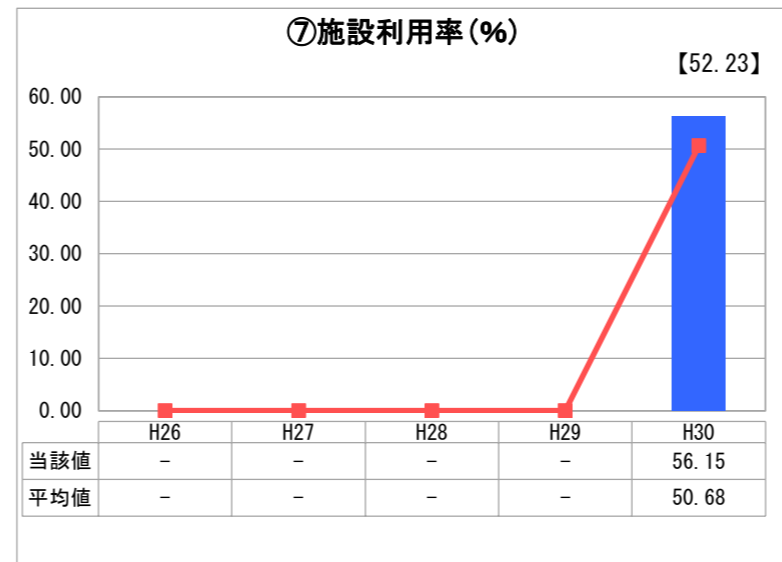
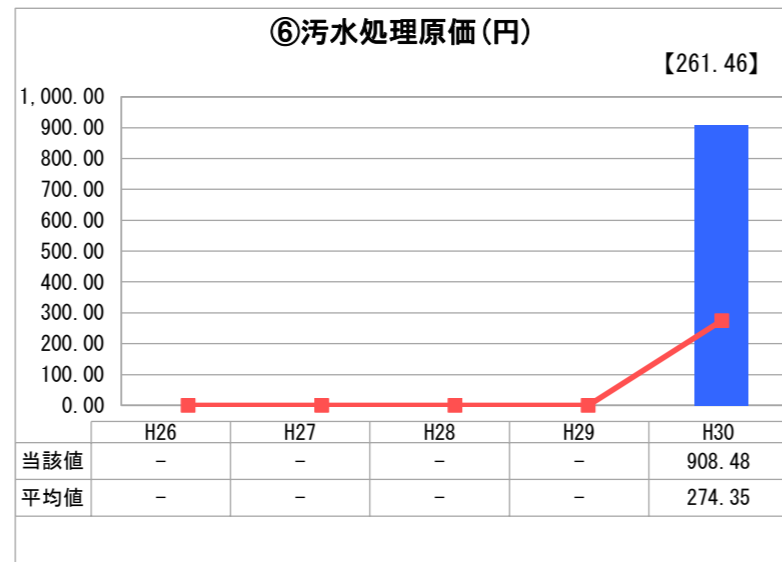
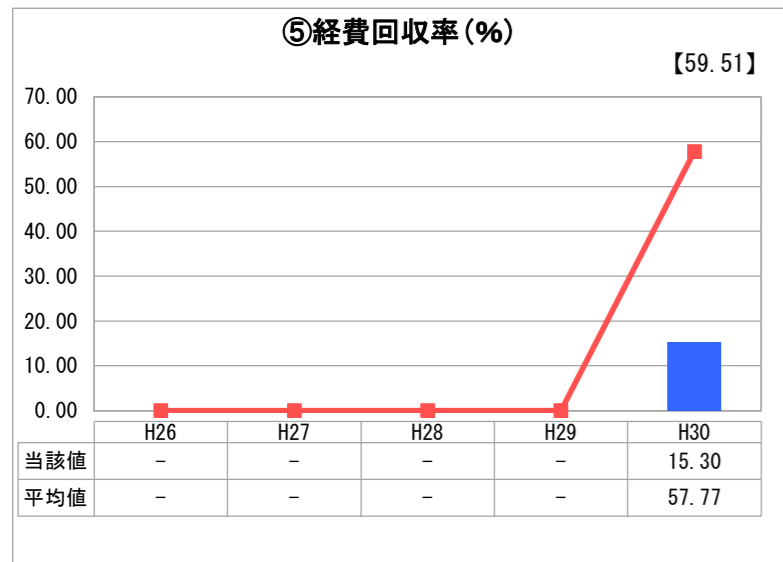
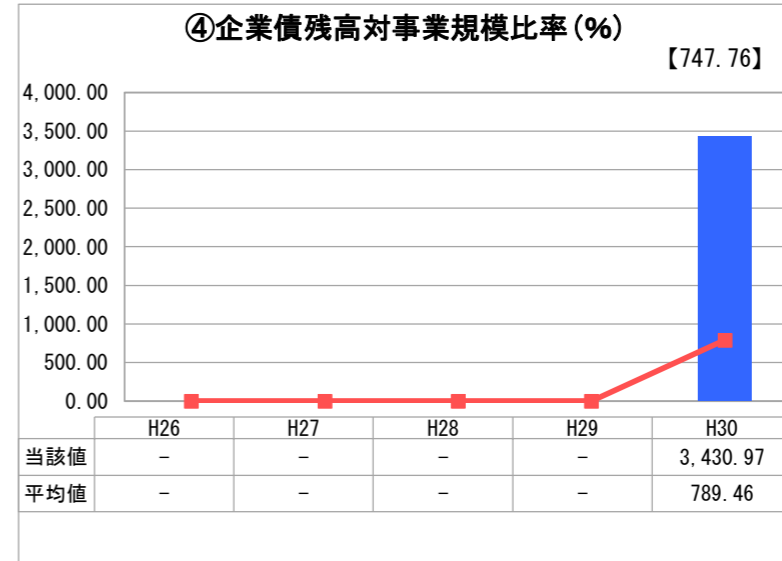
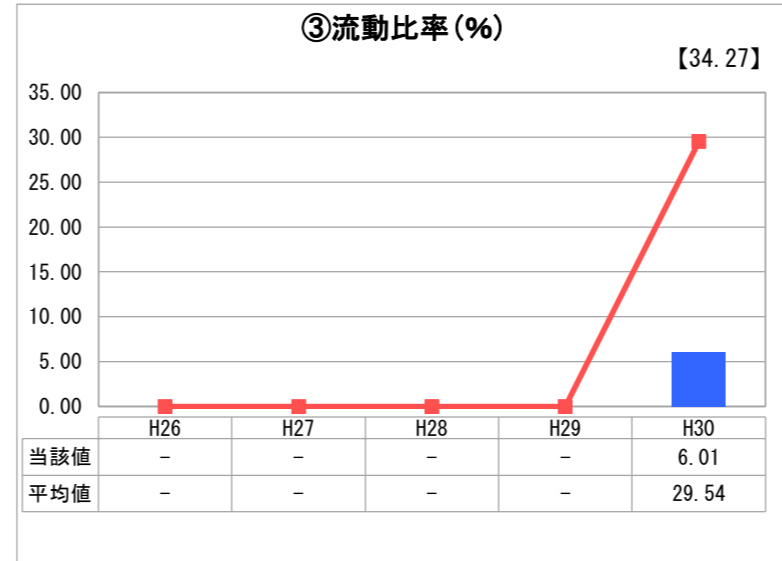
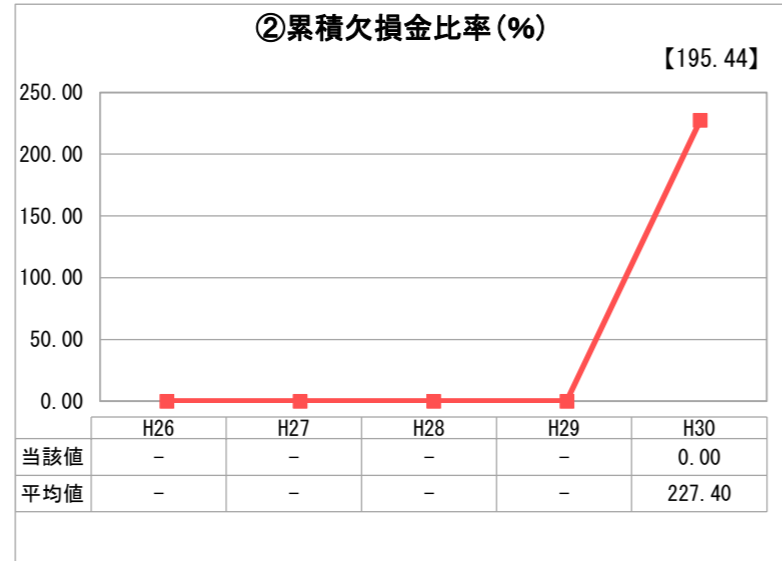
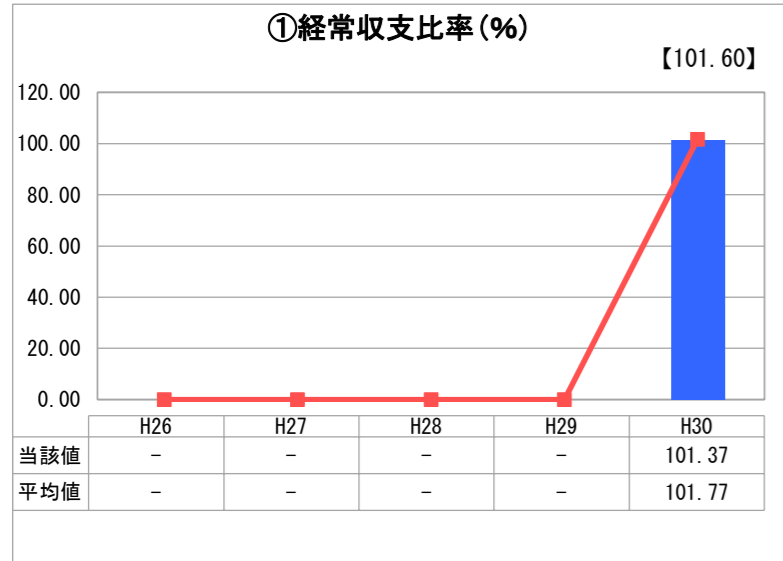
兵庫県 赤穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	52.88	4.77	83.18	2,408

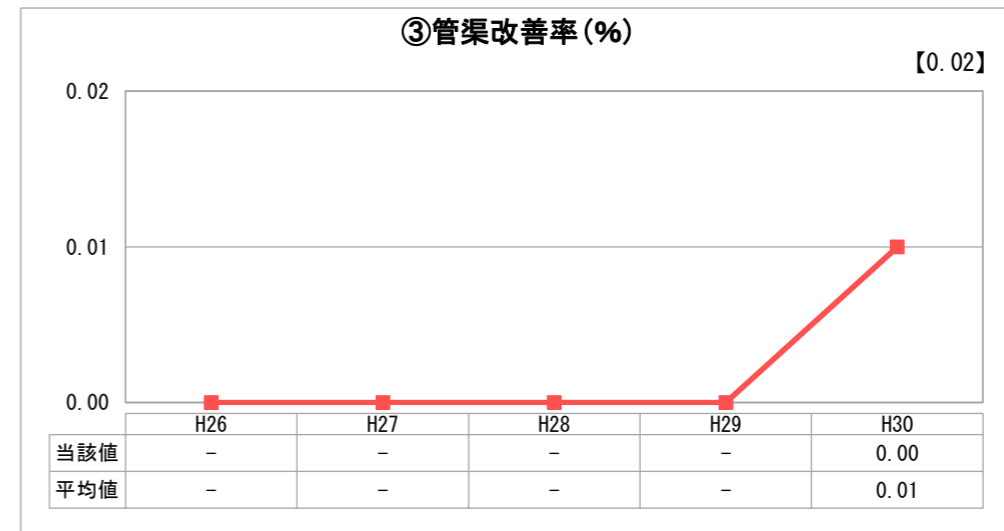
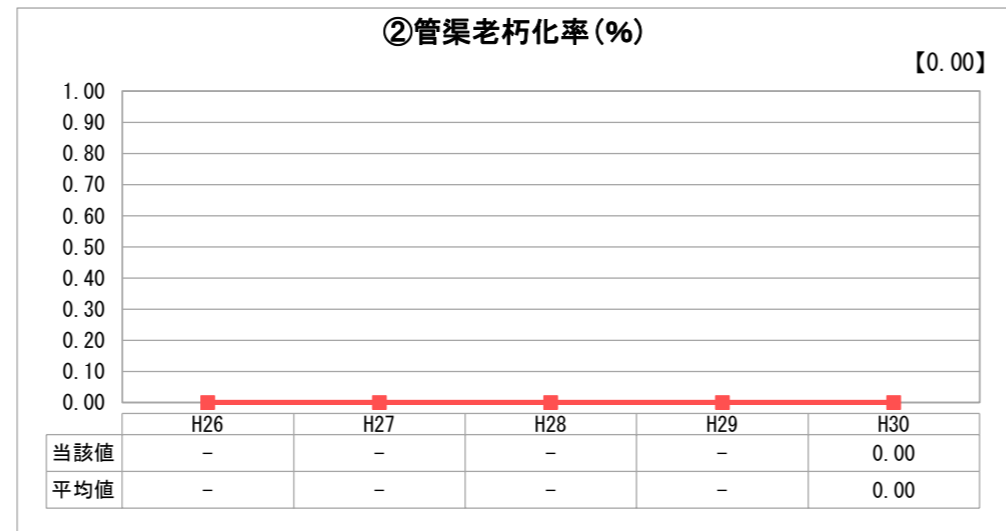
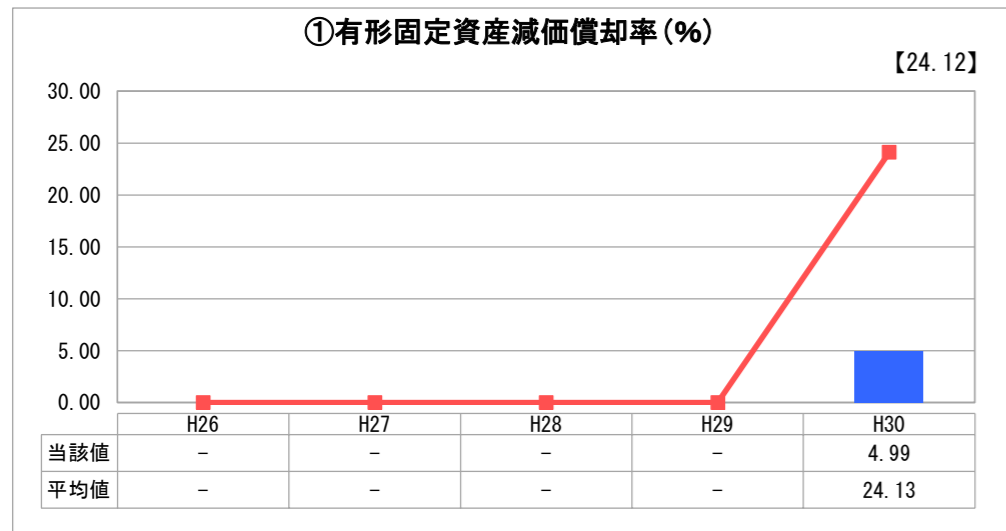
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
47,839	126.85	377.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,273	0.76	2,990.79

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度から公営企業法の規定の全部を適用して、公営企業会計に移行した。全国平均及び類似団体平均と比較しても、汚水処理原価は高く、経費回収率は低い状況で、事業運営は厳しい状況にある。企業債残高対事業規模比率は高い状態であるが、当事業は平成12年度に完了しているため、改築更新に係る新規債発行はあるものの、事業全体としては企業債残高は緩やかに減少していくものと思われる。しかし経営の柱となる使用料収入は、人口減少や節水意識の高まりなどにより増加は見込めず、経営状況は厳しくなると予想している。この状況を打開するため、早急に経営戦略を策定し、経営の合理化・効率化を図っていくこととする。

### 2. 老朽化の状況について

農業集落排水事業は平成3年度の供用開始以来、間もなく30年を迎えることとなる。8処理区のうち、供用開始が古い処理区においては、施設の老朽化が進んでいる状況である。このため、計画的な改築更新を行っていく必要があり、現在進めている農業集落排水処理施設の統廃合もこの一環である。

### 全体総括

公共下水道事業同様、人口減少や節水意識の高まりなどによる、使用料収入の減少傾向は今後も続いていくものと予測している。これに対し、老朽化施設の改築更新に係る費用の増加も見込んでいる。この状況に対応するため、計画的に投資を行うとともに、維持管理に係るコスト縮減をより一層進めていく必要がある。現在、農業集落排水事業は8処理区あるが、統廃合を進めているところであり、令和2年度において6処理区に再編される予定である。これにより、将来的な維持管理費の縮減につながるものと考えている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。